

2026年(令和8年)4月19日(日曜日)

緊張、液体窒素大実験

日本病理学会 札幌で小学生参加

日本病理学会が主催する市民公開企画「親子でびっくりに 病理の世界 液体窒素大実験」が18日、札幌市内のホテルで開かれ、多くの小学生でにぎわった。病理医は体から摘出した腫瘍の細胞などを顕微鏡



液体窒素で凍らせた花に触れる参加者（18日、札幌市で）

で診断する医師。人数が少なく、一般にあまり知られていないことから、子供らに仕事の中身を知ってもらい、将来の担い手になってもらおうと企画された。

この日は、小学生らが、8Kカメラで自分の手や紙幣などを拡大して観察した。また、細胞を凍結する際に使われる超低温の液体窒素が入った保温瓶に花や風船などを入れて凍らせる実験にも参加した。

液体窒素を初めて見る参加者も多く、凍った花に手袋越しに触れ、もろさを確かめながら、驚いたり笑ったりしていた。

同市西区の小学3年佐藤祐君（8）は「医師になりました。実験を見て病理医にも興味があった」と話していた。